

6月の野菜の見通し

令和3年5月31日現在
山形県東京事務所

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	平年比 見込	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量※ (t)	前年 占有率 (%)	
だいこん	7,172	平年 並み	7,499	103	87%	98	0	0.0%	千葉県産が終盤となるが生育前進のため切り上がり及早まる見通しで、上旬は相場が上向く気配もある。後続の青森産でも若干前進あるものの、関東産とは重なることなく産地切り替えはスムーズに進むと見る。予想入荷量は前年・平年並み。見通し単価は平年よりやや安。
キャベツ	16,917	多い	16,008	90	78%	84	0	0.0%	千葉・茨城産は10日ほどの前進がありながらも生育は順調。後続、群馬産の定植も順調推移のため全体量は潤沢な見通し。予想入荷量はやや多かった前年並みからやや減で平年を上回る見込み、見通し単価は平年比1割以上の安。
ねぎ	3,769	平年 並み	3,781	419	91%	403	4	0.0%	茨城・千葉産とも生育順調で太め傾向。数量充分で5月下旬～6月上旬の価格は軟調推移となる見通し。下旬は茨城産でトンネル作と露地作との端境による数量減が見込まれる。予想入荷量は前年・平年並み～微減。見通し単価は平年比やや安。
きゅうり	7,715	平年 並み	7,328	282	92%	270	186	2.4%	5月下旬から天候不順により関東産の数量は伸び悩む。東北産も低温での遅れあり、なかなか増量せず、6月上旬まで相場は上向く見通し。中旬には高値反動や東北産への産地切り替えが進んで相場は落ち着くものとみる。予想入荷量はやや多かった前年を下回り、平年並み～微減。見通し単価は平年比若干安。
トマト	8,345	平年 並み	8,630	272	96%	279	137	1.6%	九州は早い梅雨入りで熊本産での品質低下の懸念あり、中旬からは終盤で減少し相場はやや上向くか。関東産の生育は概ね良好、予想入荷量は前年・平年比微減も全体量は充分なことから、見通し単価は平年比やや安。

引用資料:「東京都中央卸売市場における野菜の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、「野菜の生育状況及び価格見通し」(農林水産省)、「野菜の入荷・市況見通しについて」(東京青果株)

入荷量について:平年並とは、平年との比率が80%以上、120%未満であることを示す。「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)